

訂正

「天気」12月号(853ページ)に掲載した「日本気象学会第26期役員一覧」に誤りがありましたので一部訂正及び追加を致します。

(日本気象学会 事務局)

訂正

項	目	正	誤
「気象集誌」編集委員会		中島 映至	中原 映至
沖縄支部役員(理事)		竹内 昌明	竹内 政明

追加

「教育と普及」委員会		浦野 弘		
総合計画	担当理事	木田 秀次,	佐藤 信夫,	安成 哲三
通信メディア	担当理事	村上 勝人,	村山 信彦	

差替え

国際学術交流委員会

担当理事	安成 哲三,	小倉 義光		
委員	岡村 存,	関口 理郎,	浅野 正二,	岩坂 泰信,
	黒田登志雄,	住 明正,	武田 喬男,	中澤 高清,
	新田 尚,	新田 勲,	廣田 勇,	山形 俊男,
	柏木 啓一			

編集後記：世界中、事件というものには事欠かないものである。天安門事件が起こってどうなることかと思っただら、ベルリンの壁が突然消えた。と、イラク粉争がぼつ発し未だ未解決である。思ってもいないことが次々と起こる。恐いことは地球上のだれひとりとして先のことを予測できないことである。

気象の分野でも問題は山積みである。現在最も「重大視」されているものは、環境問題と関連した気候変動のように見える。これは一種のブームのようである。この問題の解法のむずかしいところは国際政治のそれとよく似ているように思える。気候問題は人間が関与しているながら、一定の法則が成り立たず、これまでの経験も役

立たない。やはり先のことが確実に予測できそうにもない。

先日、民間人の日本人初宇宙飛行士が、「やはり地球は青かった」と言ったそうだ。地上 400 km から見た地球はまだまだ望みがありそうだ。問題がむずかしいのだから、自分にできる身近なことを探し出して少しずつ実行して行くことが大事かも知れない。明日は車の運転をひかえようかな。(M. I.)

今月号からカラーページが始まります。今後も隔月で掲載してゆく予定ですので、会員各位の積極的な投稿をお願い致します。(編集委員会)